

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年8月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2873100594		
法人名	社会福祉法人 友朋会		
事業所名	グループホーム清和苑		
所在地	川西市清和台東2丁目4-32 (電話) 072-799-6400		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成20年6月23日	評価確定日	平成20年8月15日

【情報提供票より】(20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	25 人	常勤 8人, 非常勤 17人, 常勤換算	15.3人

(2) 建物概要

建物構造	RC 造り		
	4 階建ての ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1ヵ月当た 40,000 円			

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 90.1 歳	最低	80 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	千里丘中央病院・ベリタス病院
---------	----------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

同じ敷地内に特別養護老人ホーム、デイサービス、ショートステイ、訪問介護ステーション等があり、訪問看護ステーションとの医療連携、共同防災訓練、共同での行事、法人内研修参加等法人の持つ多様性を活かした取り組みが行われている。また、地域との関わりもグループホームのみならず法人全体で取り組み、認知症サポーターの受け入れ等も検討している。共用空間や居室はゆったりとしていて馴染みの家具類、季節の花等で生活感、季節感が醸し出されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 前回の第三者評価をもとに改善計画シートを作成し、全職員で話し合い優先順位をつけて改善に取り組んでいる。「そら」ユニットの玄関の開錠、利用者本位の介護計画の作成、運営推進会議を活かした取り組み等の改善課題に一定の成果が見られる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 自己評価は各ユニットリーダーが中心となり全職員が意見を出し合っ てまとめ、その結果を管理者、ホーム長、職員で話し合った。その中 で、職員間で理解・認識に温度差があるという課題が見えてきたため、 現在その解消に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 昨年度からキャラバンメイトの参加を得たことで、地域との付き合い が増え、より意見交換などができるようになった。運営推進会議では、 自己評価や第三者評価の結果をふまえ改善課題、ホームの取り組みの現 状と今後の取り組み方などについて話し合っている。また、地域との連 携・関係づくりに関連する評価項目について評価してもらった。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 年1回家族会を開きそこで意見交換を行い、場面によっては職員が席を を外すなど苦情が出やすいように工夫している。また、家族訪問時は雑談 のなかから苦情というより「ご希望」として引き出せるような雰囲気作 りに努めている。把握した「ご希望」は職員レベルで留めず、上位者に も報告を行い、全員で共有するようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 自治会に加入し、利用者と共に地域の清掃活動やリサイクル活動に参加 し、共に暮らす地域住民の一員として地域で必要とされる活動や役割を担う よう努めている。地域コミュニティの集いやお祭りにも参加し、トライやる ウィークの中学生の実習の受け入れなどにも取り組んでいる。また、実習終 了後はボランティアとして来苑するなど交流を深めている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境のもと、「地域に根ざした暮らしの継続を支援する」というホーム独自の理念を全職員で話し合いつくりあげた。特に、地域の一員であるという認識を理念の中で明確にした。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を意識し、共有できるよう各ユニットの玄関やキッチンなど職員の目に付きやすい所に掲示し、ワーカー会議や日々のミーティング時に話し合っている。利用者と接する時に、特に「自立支援」という目標に基づいたケアが実践できているか話し合い、日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、利用者と共に地域の清掃活動やリサイクル活動等に参加し、共に暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割を担うよう努めている。地域コミュニティの集いやお祭りにも参加し、トライやるウィークの中学生の実習受け入れなどにも取り組んでいる。また、実習終了後はボランティアとして訪問するなど交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の第三者評価結果をもとに改善計画シートを作成し、全職員で話し合い優先順位をつけ改善に向け取り組んでいる。また、今回の自己評価はユニットリーダーが中心となり、全職員が意見を出し合っただけでなく、その結果を管理者、ホーム長、職員で話し合った。その中で、職員間で理解・認識に温度差があるという課題が見えてきたため、その解消に取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>19年度からキャラバンメイトの参加を得たことで、地域との付き合いが増え、より意見交換ができるようになった。運営推進会議では、自己評価や第三者評価の結果を踏まえ、改善課題、ホームの取り組みの現状と今後の取り組み方などについて話し合っている。また、地域との連携・関係づくりに関連する評価項目について会議で評価してもらった。</p>		<p>運営推進会議の開催回数は昨年度より増えているが、今後も定期的に会議を開催し、より外部の意見を取り入れられるよう、開催頻度を概ね2カ月に1回へと増やすことが望まれる。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>法人の「ゆうゆう通信」、ホーム独自で発行している「かぜだより・そらだより」や「運営推進会議議事録」等を市へ提供し、「認知症学習会」通して地域包括支援センターと連携を図っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族に上記の「通信」「たより」を送り、日々の暮らしの様子、行事、職員の異動等を知らせている。買い物等は全て立替払いとし、金額の大きいものは事前に了解を得て、毎月末に領収書と共に家族に報告している。また、健康状態については、面会時や電話で随時報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年1回家族会を開き意見交換を行い、場面によっては職員が席を外すなど、苦情が出やすいように工夫している。また、家族訪問時には雑談の中から苦情というより「ご希望」として引き出せるような雰囲気作りに努めている。把握した「ご希望」は職員レベルで留めず、上位者にも報告を行い、全員で共有するようにしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニット間の異動は行っているが、法人内での異動は極力抑えている。職員は2~3名の利用者の担当制にし、やむを得ず担当が変わる場合は、十分時間をかけて引き継ぐようにしている。また、他ユニットの担当日を不定期に組み入れることにより、担当職員の急な欠勤等による混乱防止にも対応できるよう柔軟性を持たせている。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症介護実践者研修は毎年交代で全員が受けるようにしている。認知症介護実践リーダー研修にも積極的に申込みを行い、その他の外部研修にも継続的に参加している。職員は研修終了後、報告書を作成し研修内容を共有している。研修参加は出勤扱いとし、資格取得等の任意の研修についても公休扱い、勤務日の調整等の支援を行い、職員の育成に積極的に取り組んでいる。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県内の宅老所・グループホーム連絡会に加入し、また、市内のグループホーム事業者と認知症学習会で認知症ケアについての勉強会や研修会を行い情報交換を行っている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前には家族や本人に面接し、見学や昼食を一緒にしていただくなど、雰囲気徐徐に馴染めるよう工夫している。ホームで不安が強く出そうな利用者には、家族に2~3日宿泊を依頼し、本人・家族が安心して入居できるよう取り組んでいる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は「共に過ごし、学び、支え合う」関係を日々の暮らしの中で築いていくことの大切さを理解し、「一緒に生活する人」ということが自然に、素直に受け入れられるようになった。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>散歩時の会話や、新聞の折込広告を見てつぶやいておられる事に耳をそばだてて、一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。意思の疎通が難しい利用者には、持ち物(例えば、犬のぬいぐるみを持っている人はドッグランドに行きたい等)や家族に尋ねるなどして、職員で話し合い検討している。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意向、希望を反映した介護計画を作成している。また、作成に当たっては担当職員、必要時にはかかりつけ医・看護師等の関係者の意見も聞きながら、作成担当者がまとめ、本人・家族と話し合い了解を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は概ね6ヵ月ごとに長期、中期、短期目標を検討している。日々の変化は連絡ノートに記録し、状況の変化に応じて月単位で見直している。また、毎月介護計画の評価を行い、翌月の計画に反映させている。</p>		<p>期間毎の見直しは勿論であるが、状況の変化に応じて、関係者等と話し合い、具体性を持たせた短期目標の記載が期待される。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制として法人内の訪問看護ステーションとの契約や開業医による定期的往診、緊急時対応等で早期にホームで医療処置を受けることができる。また、家族が通院の介助ができない時や、車イスでの通院対応が必要な時は、本人や家族の希望に沿って柔軟に対応している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホーム利用前のかかりつけ医、併設特別養護老人ホームの診療所の医師や定期往診の医師など利用者や家族の希望による受療を支援している。通院介助の方法や受診結果の報告については、入居時にしっかり話し合い情報を共有している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>全ての利用者にホームの対応とケアの指針を説明し、本人・家族の意向を確認したうえで同意書を作成している。利用者や家族の状況に変化があれば医師、看護師等を交えて話し合いを行っている。</p>		<p>利用者や家族、事業所側の状況の変化に応じて、話し合われている内容を書類にして残し、関係者全員で方針を共有することが期待される。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>トイレ時も「ちょっとお部屋に行ってみましょうか」とさりげなく誘導し、「通信」「たより」に掲載する写真や記録については、家族の同意を得ている。また、名前は本人が呼ばれたい名前で行っている。職員会議や朝のミーティングでもプライバシーを損ねるような言葉を使っていないか確認している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>朝起きるのが遅い人や、食事に時間がかかる人などには、利用者のペースで対応している。また、入浴やおやつについても基本的な流れはあるものの時間を固定せず、利用者が一日を楽しく過ごせるように取り組んでいる。</p> <p>ホーム長は勤務ローテーションに入らず、職員が利用者に合わせた支援が行える仕組みづくりを行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的に昼夕食は併設の特別養護老人ホームと同じ食事であるが、週2回クッキング日を設けている。クッキング日のメニューは利用者と相談しながら、一緒に行える利用者は買い物から後片付けまでの一連の流れを職員と共に行っている。また、週1回選択メニューを取り入れ、利用者に好みのものを選んでもらう楽しみづくりに取り組んでいる。全ての職員が利用者と同じ食事を食べ、楽しく食事ができる雰囲気作りも大切にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間はある程度決まっているが、その時々を利用者の希望に沿った入浴ができるよう支援している。また、場合によっては併設の特別養護老人ホームの機械浴槽を利用し、立位の取れない車イス利用者がシャワー浴のみにならないよう取り組んでいる。異性による入浴介助を嫌がる人には、同性による介助を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員主導の役割や楽しみごとではなく、一人ひとりの生活歴や日々の関わりの中から、習字や絵画等の特技や楽しみごとを見出している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状態、気分、希望に応じて近くの公園へ散歩に行ったり、時にはお茶を持ってピクニックに行っている。また、馴染みの喫茶店へ出かけたり、歩行が不自由な人は車で少し遠くの公園へドライブに出かけたりしている。今後、より個別的な外出支援を増やすよう検討している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	「そら」ユニットの玄関の施錠については、前回の第三者評価で改善課題として取り上げられた。職員全員でどの時間帯なら目が届くのか話し合い、職員が3人揃う時間帯は開錠することにした。2階ユニットでは、利用者が外出しそうな様子があれば、止めずにさりげなく一緒に付いていく等、安全を確保しながら自由な暮らしを支援している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアル、夜勤者用マニュアルを作成し、年2回法人事業所と合同で防災、避難訓練を実施している。また、米などの非常用食料や備品も準備している。運営推進会議で地域の人々の協力も依頼している。地震時のマニュアルを作成するまでには至っていない。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分摂取量を毎日夜勤者が集計し、不足が見られたときには好みの食べ物や飲み物で補っている。また、併設特別養護老人ホームの管理栄養士に栄養バランス等について、専門的な観点からチェックしてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂に隣接してたたみ敷きのスペースがあり、馴染みの掛け軸、サイドボードの上にはアジサイの花、玄関や廊下に絵画や写真、季節のいけ花等々生活感や季節感をうまくかもし出している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のカーテン以外は利用者の好みのベッドやぬいぐるみ、スナップ写真や配偶者の写真等、使い慣れたものや好みのものが飾っており、一人ひとり個性のある生活の場所となっている。		

 は、重点項目。